

87 モーイ親方（八）

（嫁取り・薩摩の難題）

縁組をしたそうですよ。親同士が。それで、その女の人、自分は知っておるが、きれいな女だったつて。

それも、自分がいつしよに遊ぶ下男よ、それがね、

「あんたはその女の人、知っておるか」と言うたら、

「ああ、知っておるよ」と言うて、

「あんたも見るか」と言うたそうですよ、それに。自分の下男にね。そつで、

「それじゃ見せてくれ」と言うたら、偉い人のお家は石垣に囲まれているでしょう。それだから、

「この石垣の外からちよつと上がっておきなさい。私がその女を出すから、見なさい」と言ったらね、どんな人ですかねえと思つたら、それはまた毎日、鶏、それを抱いて、それを喧嘩さして遊びよつたそうですよ。それで、その女の人を出すにはどんなにして出するかねえと思つたら、

「あんたはそこに上つておりなさいよ。その石垣の上

に。ほして、そこを覗きなさいよ」と言うたらね、

「はい」と言つて、その下男はそつから覗きよつたつて。

そしたら、その鶏は家の前に投げたら、お家に入ろうとしたらね、その女はもう、

「ああ、鳥が入つておる」言うて、それを追いに出してきたそうですよ。そんなして見せよつたつて。そのモーイはね。

それで、そのモーイはね、家の親は三司官だから。三役よ、政府の。シナからね、中国から三つの難題を、あそこから、そのシナから突き付けられて。

一つはね、大きな岩を何とか持つてきなさいと言うたそうですよ。岩。ビンの御嶽。

「それ持つて来なさい」と言つて、一つはその難題。また一つは、灰で縄を縛つて持つてきなさいというわけ。また、雄鳥の卵を持つてきなさいと。三つね、あすこから言い付けられたそうですよ。でもこの三司官はね、毎日それ集まつては、

「どんなするかね」。自分の親もいるさ。

「どんなするかね」と言つていろいろ毎日会議やつた

そうですよ。

それ、側で自分は聞いておつてですね、お父さんに、「お父さん、それは容易いことですよ。私が行きますよ」と言うたら、みんな驚いてね、どんなにするかねえと思つて。でも、これは誰も出来ないから、

「これを行かすことにしよう」と言うて、モーイは行かせたそうですよ。中国のほうに。昔は唐というた、そこは。

それで、その人があそこに行つてね。それをみんな、「雄鳥の卵持つてきたか」と言うたら、

「今、持つてくると言うたがね、お父さんが持つてくると言うが、お父さんはね、やがてお産する」と言うて。

「来なくてね、私が代わりに来ました」と言うたらね、「男がお産するか」と言うたら、

「それでは雄鳥の卵はあるんですかねえ」と。それであそこは負けたそうですよ。

それでまたその、大きな岩もね、

「大きな岩、持つて来るのは持つて来るけれどもね、用意してあるけれど、それを積む沖縄には船がなくて

ね、その船を貸して下さい」と言ったそうですよ。それで、あそこは貸す船ないですよ。それで、それも負けて。

また縄は、焼いてね、持って行ったそうですよ、それは。それを持てたらね、それも満点になって。

「もう、あんたは偉い」と誉めてね、

「あと褒美は何欲しいか」と言うたら、そのモーイはね、

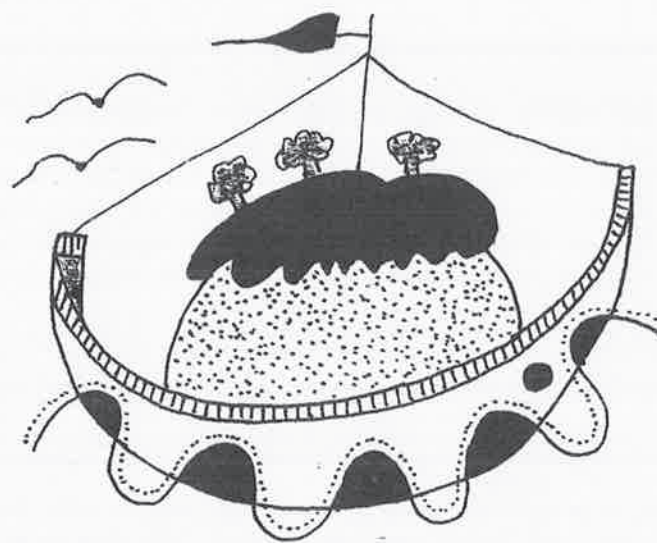
「何も別に欲しいものはないがね、こっちのね、王様の座をね、一日でも二日でも、それが欲しい」と言うたら、それはもう、その男の約束でしょう。あそこはそれに譲ったそうです。その王様のその椅子をね。

そして、その時に、沖縄はあそこから借金たくさんしておいたそうです、実は。それでその借金はね、証拠が入っておるでしょう。それをみんな取って焼いてしまうて、ちやうどなくなっておるでしょう。

それで、帰って来たらね、その人はもう、その時にモーイ親方は、

「これは偉い人だったねえ」言うて、こっちの三司官はね、それから嫁も貰って、やったという話がありま

すよ。



字武富 大城トミ